

134. 施設内看取りや在宅看取り推進に向けた高齢者意思聴取り調査方法及びその表現・共有方法に関する基礎的研究

岩手県立大学総合政策学部教授 倉原 宗孝

概要

超高齢化社会にあって終末医療費削減等の必要性に迫られている我が国において、自宅や施設での看取りを促進していくために、「あんな死に方を希望します」と多くの高齢者や家族に安心してもらえるような看取りの成功事例やQODの事例を増やしていくことが肝要である。

この調査研究は、高齢者の人生の来し方および終末期における過ごし方や死の迎え方に関する希望や意思を聴取り調査するとともに、それら情報を整理・表現・共有するための手立て・方策を調査研究するものである。

高齢者の思いをより汲み取ることができ、その人らしい人生の最期を守るために、どのような情報共有・表現手段が適しているかを調査・提案するものである。

我々の調査研究は、質の高い現場に二度三度と赴き、高齢者や事業者の本音を引き出すところに調査の力点を置いた。また財団から助成を受けていることで調査活動への信頼を得やすかった。旅費負担は重く、今回の助成なくしては実現し得ない調査であった。最後に御礼を申し上げたい。

背景および目的

(1) 背景ないし必要性

厚労省が平成24年度発表した『死亡場所別、死亡者数の年次推移と将来推計』の数値によると、今後自宅、病院、介護施設で死ぬことのできない人が増加し続け、2030年には現在から倍増の47万人に上ると推計されている。要するに、今後は「看取られる場を確保できない高齢者」が急増する懸念が増大しているということである。

こうした中、これまでは入所者が臨終期を迎えると病院に移送していた高齢者施設の中にも施設内看取りにチャレンジする施設が増えてきたが、まだまだ圧倒的に不足している状況にあり、今後施設内看取りや在宅看取りを増やしていくための国家的な取り組み・運動が不可欠といえる。

また、施設内看取りや在宅看取りを推進していくためには、施設や介護事業者側の姿勢・認識・理解も重要であるが、なにより高齢者本人の意思表示と家族の理解が不可欠であり、そのためには、「あんな死に方を希望します」と多くの高齢者や家族に安心してもらえるような看取りの成功事例、QODのモデル事例を多数増やしていくことが肝要であり、それは即ち、高齢者本人と家族に対するデス・エデュケーション（死の教育）の普及が必要であることを物語っている。

加えて、施設内看取りや在宅看取りを増やすためには、施設職員や介護事業者の意識改革と高齢者への認識・理解向上も重要な課題である。日々の介護の仕事の中で、どのようにして高齢者の意思を確認したり、場合によってはその意思を後押ししてあげればいいのか、そのための姿勢や技術をモデル事例の紹介や技術の標準化を図りながら提示していくことが不可欠である。

本調査研究事業は、こうした聴取りや表現の手法による効果を今後さらに調査検証することへ向けた基礎的な調査研究である。

今回の調査研究によって得られた成果をもとに、その後さらに必要な調査を重ねていくことで、わが国における看取り活動への気運を高めていくことに寄与できるものと考えている。終末期・看取りに対して今後さらに多くの技術・経験等の蓄積が求められるが、本研究はそれら技術・経験の拡充に大きく貢献すると共に、終末期・看取りを取り巻く諸環境（施設・制度・教育等）の今後の進むべき方向性を示唆するものでもある。

(2) 目的

今回の調査研究事業は、(1) で述べた背景やこれまでの経過を受けて、高齢者の人生の来し方や終末期における過ごし方や死の迎え方等に関する希望や意思を聴取り調査し、それを紙芝居という表現方式によって家族や施設職員と共有を図るという方式について、複数の対象地・対象者をモデルとする実験的な調査によって第一歩目の検証を試みようとするものである。

この「聴取り調査」と「紙芝居等による表現・共有」という方式が、施設内看取りや在宅看取りが益々必要とされる今後の介護社会において有効・有望な方法であるということに関してその可能性を示すことができるのではないかと考えた。

今回の調査研究では、とりわけ以下のポイントについて注目・確認した。

- ①高齢者に対する丁寧な聴取り調査は、高齢者本人の終末期を有意義に過ごすことに繋がり得るか。
- ②高齢者に対する丁寧な聴取り調査を行う過程で、高齢者が自らの意思による終末期の過ごし方や看取りの希望等に関して口に出すようになるか。
- ③高齢者のこれまでの人生の来し方や、終末期に関する意思表示に対して、家族はその意思を尊重できるのか。また、どのような考え方を持つのか。
- ④紙芝居等の各種手段は、家族や職員等が高齢者の人生や意思を理解・認識する上で有効・有望な手立てとなり得るか。
- ⑤これら一連の取り組みが、高齢者本人の介護度や QOL の改善に繋がり得るのか。
- ⑥これら一連の取り組みを知った上で、全国の高齢者施設や医療・介護関係者等は、看取りの推進やリビングウィル確認に対して、どのような考え方を持つか。

方法

(1) 高齢者を対象とするヒアリング

- 研究チームの聴取り調査に協力できる高齢者10人程度を対象に、各人毎に「人生の来し方や終末期に関する意向・希望」等についてヒアリング調査を行う。
- 調査においては、『目的』で示した①～⑤の項目を念頭にヒアリングを進める。
- 高齢者ヒアリングは各人3度4度と重ねることで新たな事実が判明することがある。各人平均3度程度のヒアリングを行う。
- ヒアリング調査をもとに、各人の人生の来し方や意向を記録、整理・共有、表現していくためのツールに関する考察を行う。

(2) 各種ターミナル施設や訪問看護事業者へのヒアリング

- これまで施設内看取りや自宅看取り推進に向けた取組みを重視している次の事業者に対するヒアリング調査を行う。
 - ・特別養護老人ホーム
 - ・認知症高齢者グループホーム
 - ・小規模多機能型居宅介護施設
 - ・その他のターミナル施設
 - ・訪問介護事業所
- 調査においては、『目的』で示した①～⑥の項目を念頭にヒアリングを進める。

(3) 介護福祉関係者対象の「紙芝居」手法に対するアンケート

- 「高齢者の人生の来し方を記録し、それをもとに一人の高齢者の人生を描いた紙芝居（以後、『人生劇場紙芝居』と呼ぶ）」を介護福祉関係者に対し上演し、その手法に対する介護福祉関係者の意見・反応等を調査する。

(4) 新しい手法の提案

●前述(1)～(3)の調査結果を踏まえ、高齢者の人生の聴取りを記録・整理・共有・表現するために適した手法を提案する。後に示すが情報収集・共有の面で簡易性・普及性に優位な既存ソフト(Excel)を活用した方法である。

結果および考察

(1) 高齢者を対象とするヒアリング

高齢者を対象とするヒアリングの結果を表1に整理した。「年齢・性別・居住地・家族・介護度」、「現在の健康状態」、「ヒアリング回数」、「延命治療や看取りに関する意思表示状況」、「葬儀や埋葬等に関する意思表示状況」、「家族の理解・同意」、「人生の来し方を読み取るキーワード」等によって整理した。その結果、次のようなことを認識或いは確認するに至った。

- ・高齢者のヒアリングは回数を重ねることが必要と思われる。
- ・ヒアリングを重ねる度に「これまで発言されていなかった記憶」が出てくるが多かった。
- ・また、回を追う毎に元気になる高齢者もいた(ヒアリング調査者の訪問を楽しみにしてくれていた)。
- ・人生の来し方の話を引き出す上では、戦争、恋愛、結婚、死別・離別、仕事などが話を引き出す上でのポイントだった。歌や音楽もポイントとなる人が少なくなかった。
- ・今回のヒアリング対象者の大半が「延命治療拒否」、「自宅または入所施設での看取り希望」で、家族の同意にも問題が無い高齢者であった。
- ・子供の頃の思い出、戦争の記憶や経済的な苦勞を乗り越えた思い出、家庭を持ち家族が増えていった思い出等に加え、「歌」が重要なポイントとなることがわかった。

表 1. 高齢者ヒアリング調査結果

No.	居住地	年齢	性別	要介護度	住まい	家族	ヒアリング回数	健康状態	延命治療や看取りに関する意思表示	葬儀や埋葬等に関する意思表示	家族の理解・同意等	人生の楽しみ方を取るキーワード	備考
1	北海道 鹿追町	89	男	4	特養	別居	3	・人工透析 ・歩行補助具必要	・妻も看取られた同じ特養で自分も逝きたい	・妻も入ったお墓が準備されている	・子どもたちも理解済み(紙芝居の効果)	・戦争 ・満州 ・引き揚げ ・恋、北海道へ ・結婚 ・仕事、子育て	人生劇場紙芝居 満州編の主人公
2	北海道 鹿追町	94	女	4	特養	別居	1	・車椅子必要	・この特養で最期を迎えたい ・延命治療は不要	・自宅も特養入所時に売却処理した	・子どもたちは、自宅の売却処理は理解できていない	・戦争 ・樺太生活 ・引き揚げ ・結婚 ・仕事、子育て	・人生劇場紙芝居 樺太編の主人公 ・2016年11月死去
3	北海道 岩見沢市	87	女	3	自宅	同居	4	・脳梗塞による手足麻痺	・ずっと自宅にいたい	・富山からの浄土真宗の仏壇を大事にしており、そこに入る	・往診医師と相談するが、基本的には自宅で看取りたい	・貧しさ ・家族の繋がりが ・結のいびり ・農作業の厳しさ ・夫の転勤に合わせた引越 ・人生とともに歌 ・孫が介護	地域の世話役的存在
4	北海道 岩見沢市	83	男	自立	自宅	別居	2	健康	・まだ考えない ・もう一度イギリスへ行ければ	まだ考えていない	不明	・蒸気機関士生活 ・辞筆活動 ・イギリスで機関車の運転 ・全国的受賞歴	地域のまちづくり活動メンバー
5	和歌山県 田辺市	86	女	2	自宅	同居・別居	3	・乳癌を罹患 ・大腿骨人工骨頭置換、歩行不自由	・自宅で死にたい ・延命治療は不要	・位牌、仏壇、墓は要らない。 ・葬儀ではなくお別れの会がいい	・往診医師と相談するが、基本的には自宅で看取りたい	・戦争 ・南海地震、津波 ・引越 ・貧しさ ・北海道、全国への旅 ・歌 ・人生を変えた療術	民間療術の講師として全国で活動
6	広島市	83	女	自立	自宅	別居	5	健康	・回復の見込みのない場合、延命治療は不要。 ・好きな人たちに囲まれて死にたい。	・白菊会に兼帯する契約を結んでいる。 ・遺体が病院へ行く前に、一晩だけ、好きな人々に囲まれていたい。その家の手配を家族ではなく知人の男性に頼んだ。	家族(娘)は、敬体のことも、通夜のことも承知している。	・勉強・向学心 ・恋心 ・美青年との結婚 ・夫の事故と障害 ・姉の夫との恋 ・結婚 ・広島へ逃避行 ・娘との生活 ・サラリーマンに ・一人で歌州へ ・再婚 ・夫との死別 ・新しい疑似家族 ・人生いつも歌	・民間教室主宰 ・NPO法人理事
7	広島市	86	女	自立	自宅	なし	4	・平成元年に脳腫瘍で手術 ・以降全身各所に癌が転移 ・しかし死に至らず ・要介護・支援の判定までには至らない	複数箇所の癌があり、長期にわたって病院で治療を受けているため、病院で最期を迎えるのではないかと思っている。	・子どもがいないため、あらかじめ葬儀社に葬儀と埋葬の手配は済ませている	なし	・戦争 ・旧家の困窮 ・原爆後死体を焼く(勤労奉仕) ・恋、駆け落ち ・仕事 ・男の裏切り、離別 ・幽霊との付き合い ・引越、独居生活 ・人生節々に歌	
8	広島市	76	女	自立	自宅	同居・別居	4	健康	まずは衰弱の夫のことがあるので、自分のことはまだ考えていない。	夫と一緒に仏壇やお墓だと思	子どもたちはまだ話していない	・台湾からの引揚げ ・警察官だった父親の言葉 ・貧しさの中で明るく ・結婚、子育て ・広島への引越 ・ボランティア活動への参加	・NPO法人理事
9	広島県 三次市	89	男	自立	自宅	同居・別居	2	良好だと思われていたが肝臓癌が発見され急逝	妻に影響を受け、10年前から自宅での看取りを明言	信仰している浄土真宗の仏壇と墓に入る	・妻とは同じ考え方にはまだ聞いていない	・勉強 ・満州 ・銃殺刑、満人の仲間 ・引き揚げ ・貧しさ ・農業 ・地方議員 ・篤農家活動 ・日中友好活動	・地域の農業リーダー ・議員 ・2017年3月死去 ・本人の人生遺言ノートと遺族(娘)からのヒアリングによる調査
10	広島県 三次市	89	女	自立	自宅	同居・別居	2	良好だと思われていたが、すい臓がんにより急逝	20年以上前から自宅での看取りを明言	夫と同じ浄土真宗の仏壇と墓に入る	夫とは同じ考え方には既に聞いていない	・不在がちな夫への不満 ・山菜、こんにゃく、ぶろく造り ・子どもたちへの伝授 ・家を守る ・石見神楽、歌舞音曲	・2017年10月死去 ・自家撮影終末期ビデオ資料と遺族(娘)からのヒアリングによる調査

(2) 各種ターミナル施設や訪問看護事業者へのヒアリング

施設内看取りを積極的に実施している事業所と、自宅での看取りを支援している訪問看護事業所に対して、ヒアリングを行った。

その結果概要を下記および表 2 に示す。

- ・医療機関との連携はいずれの事業所においても密に行われている。看取りに理解のある医師の存在が不可欠であることがわかる。
- ・延命治療をしないこと及び施設内や自宅での看取りに関する意思確認は、主に家族に対して行われている（本人の意思確認ができる場合には本人の意思を重視する）。
- ・前述の意思確認にあたっては、事業所やセクションの責任者クラスがあたっている。これは当然のことと思われる。
- ・どの事業所においても、利用者の人生の流れや考え方を尊重した介護・看護が行われているようだが、利用者の声を聴取ることに関しては、すべての職員にその能力を求めることには無理があると思われる。ある程度の年齢や知識・キャリアを持つ職員は聴取ることができても、若手職員には難しいことが多いようだ。高齢者の声を聴き、理解し、若い職員に伝える「通訳」のような能力を持つ人材の養成が必要ではないかと考えられる。
- ・また、施設入所する高齢者の状態も年々重篤になっているようだ。かつては入所者の人生の話を聴くことができたが、最近の入所者は状態が重く話を聴くこともできないというのが、施設における実情のようだ。ナラティブな介護を標榜し、高齢者自身の口から人生の来し方や自身の考え方を聴くという試みは、施設入所以前の段階からの実施を模索しなければならない。

表2. 事業所ヒアリングの結果

No.	所在地および施設・事業所	事業の内容	ヒアリングの対象	施設内看取り自宅看取り割合	連携する医療	延命治療や看取りに関する意思確認の状況	意思確認する人	人生の来し方の聴き取りについて	備考
1	北海道鹿追町 特別養護老人ホームしゃくなげ荘	特別養護老人ホーム	施設長	亡くなる入所者のうち約半分が施設、半分が病院	法人が連携する町内の病院	・施設入所時に家族に確認する。 ・死期が迫る手前でも再度確認する。 ・確認するための説明書式も用意している。 ・最期は病院で「施設内看取り」を推すことはしない。	施設長 (若い職員では、大事な重たい確認を上手くできない)	・本格的な聴き取りは『人生劇場紙芝居』作りのヒアリングで初めて行った。以来、ヒアリング対象者に対する介護スタッフの考え方に変化が見られた。 ・しかし聴き取りができるのは、入所者のうち1割くらいしかない。 ・日常、可能な限りのヒアリングはしているが、若い職員には高齢者の言葉を十分理解できる知識がない。 ・理解力のある職員でなければ入所者の言葉を聞き漏らしてしまう。 ・入所時から「東京センター方式のアセスメントシート」の活用を心がけて入るが、シートを使いこなせる職員は僅かである。	最近、「施設内看取り」を半ば入所条件のようにして家族に同意させている特徴があると思う。「施設内看取りであればなんでもいい」というような「なし崩し的看取り」が増えることを懸念している(施設長談)。
2	和歌山県田辺市 訪問看護ステーション時計	訪問看護	看護主任	亡くなる利用者のうち1/3が自宅で看取り	近くの医院との連携が大半	・病院からの退院で訪問看護に移行する際に家族に希望を確認する。 ・事業所側から自宅看取りを勧めることはなく、本人や家族の自然な選択にまかせている。	看護主任	・日々の訪問の中で利用者さんの声を聴くが、その中で「昔の話」はその方の人生の文脈を知る上でとても重要だと感じている。 ・しかし一方で、その大事さを理解できるのは50歳以上のスタッフで、比較的若いスタッフでは利用者の言葉の意味を理解できないこともある。 ・利用者の日々の様子はSOAP形式で記録するが、その内容の大半はフジカレ、バイタルについてで、ソーシャルメンタル、スピリチュアルに関する内容を記すことはほとんどない。本当のQOL確保にはそれらが重要なことを認識しているが。	
3	広島県福山市 霧の浦さくらホーム	認知症グループホームおよび小規模多機能	運営責任者	これまで入所者のほぼ全員を施設内で見とってきた	近くの医院との連携が大半	・地域の中では「最期はさくらホームで」という考え方が定着してきているので、入所時に改めて確認はしないが、死期が近づいた際には家族に希望を確認している。	運営責任者	・入所者本人からは当然のこと、家族からも入所者の人生や考え方、嗜好などを聴く。 ・地域内からの入所者が大半であることから、入所者の人となりに関する情報は比較的得やすい。	
4	宮崎県宮崎市 かあさんの家	その他のターミナル機能(ホームホスピス)	法人代表	これまで入所者のほぼ全員を施設内で見とってきた	代表の配偶者が医師で医院を開設	・かあさんの家は「ホームホスピス」を謳っていることから、ここに入所することはここで亡くなるということの意味している。	同左	・開設初期の頃は、聞き書きボランティアの協力を得て、入所者の聞き書きシートを作成していた。それらは、入所者の人生の重さを十二分に伝えてくれるものであった。 ・最近に入所してくる方の状態が重く、聞き書きができない。	電話による質問

(3) 介護関係者等対象の「紙芝居」手法に対するアンケート

当チームでは、高齢者の人生を描いた紙芝居（人生劇場紙芝居）が終末期の高齢者自身やその家族の理解促進、さらには介護等職員の理解促進に向けて一定の効果を有すると考えてきた。

家族や施設内職員に向けては特別養護老人ホームしゃくなげ荘にて人生劇場紙芝居の上演を行い（2016年2月：本研究応募後で、研究着手以前）、紙芝居のモデル当事者、当事者の家族、同じ施設内で過ごす他の入居者、しゃくなげ荘の職員、職員の家族、地域の高校生や大学生からも次のような好評を得た。

- ・当事者：自分のことなので照れ臭さもあって多くは語らなかったが、この紙芝居作りを日々楽しみにして、日々元気になっていた。
- ・当事者家族：「親のことを少し理解できたように思う、ありがとう」と、礼を言われた。
- ・他の入所者：認知症等の高齢者たちが、涙を流したり拍手したりして喜んでいた。

・施設職員：モデル当事者の高齢者たちに対する理解が深まったようで、以降の介護業務にも若干反映され流ようになった。

・地域の子供：「10分間集中させるのさえ大変」と言われる幼児や小学生が、1時間の間、じっと紙芝居に聴き入っていた。

・地域の高校生・大学生：じっと見つめて聴き入る子や涙を流しながら聴いている子の姿が目立った。

このような聴衆の反応から、『人生劇場紙芝居』は介護ステージのいずれかの段階で大いに重要になるものと思われたが、再度このことを確認するために、介護現場従事者等を対象に上記とは別の公演会とその後の感想・意見（アンケート）調査を行うこととなった（2017年9月3日大阪にて実施：参加者100名中43名が回答）。

アンケート結果を表3～5に示すが、その概要を報告すると次のとおりである。

・回答者のほとんどが、「『人生劇場紙芝居』は役に立つと思う」と回答している。「利用者の人となりを理解するのに役立つ」という内容の回答が多い。

・一方で、「利用者とは直接関係のない他人（高齢者、介護関係者、子供等）にとっても意味がある」という内容の回答も散見される。とりわけ、「高齢者にとっては、他人の人生の紙芝居ではあっても、そこに自分の人生を重ね合わせたり、投影させることで、自分の記憶や感情が蘇るという効果があるのではないか」という意見が目についた（このことは上記「他の入所者」の反応とも共通する）。また、「介護関係者にとっても、昔（の時代）を知ることで、高齢者に対する見方（接し方）が変わってくる」等の意見も見られた。

・しかしながら、「ここに至るまでの聴き取りが重要である」ことを認めながらも「話を聴いてあげられる時間的余裕が足りない」という介護実務者ならではの悩みが吐露された回答も見受けられる。

表3.『人生劇場紙芝居』に対する介護職員等の反応（1）

回答者 No.	質問① 回答者属性	質問② 人生劇場紙芝居は役に立つか？	質問②の理由	質問③ 高齢者の声(記憶)を引き出すための手立てとして、人生劇場紙芝居に感じる特性や可能性、課題等について(回想法や傾聴法、聞き書きなどと比べて)	質問④ その他ご意見、ご感想
1	介護施設職員	役に立つと思う		その方の思いを十分に受け止めてのあゆみが、しっかりと押さえられていて、とても素晴らしいと感じました。	熱演で本当に感激しました。今後もご活動頑張ってください。
2	介護施設職員	役に立つと思う	普段目にするフェイスシートは、簡単に作成されたものであり、その人の人生や本音は、介護することを通して理解していくが、その丁寧な作業がなければ、ただの流れ作業になってしまうから。	大勢の人を対象とするか、あくまでも一人を対象にしていくか、その点をどのように折り合わせるかで、受け入れられるかが決まると思う。	一過性のものにならず、継続性をもって進めていくのが大切だと思う。本当は、紙芝居にこだわらず介護できればと思うが、つまり、ほんやりと一緒に過ごす時間が、本人にも家族にも介護職にも無い時代だと思う。
3	介護施設職員	役に立つと思う	本人様のこだわりを知ると、家族様とのやりとりの際にもスムーズになるし、以前のその人の暮らしに近づけることができる。ご本人の喜びや自己肯定につながると思う。	実演：注目を集めやすく、堅苦しくない。聞き取り：話したことが形になる喜びを提供できる。以後、役割の引き出しにつながる(自分を知ってもらうことで、自分らしさを振る舞えるのではないかと)。時間の確保が難しい。	三橋とらさんがとても演じ上手で引き込まれました。お年寄りの話をじっくり聞ける機会が減っている。こういうことを通して昔の出来事を知り、お年寄りの現状を知るきっかけになったらと思う。
4	介護施設職員	役に立つと思う	「真剣に聞いてくれる人」、この言葉が印象に残りました。日常業務に追われ、話を聴くということが難しい中、どうやって話を聞けばいいのかと感じることもあります。でも、時間だけではないと感じました。短い時間、一言一言でもその積み重ねによって、真剣さを伝えられるのかと思いました。	昔の話を聞くだけ…という場面が多い中で、聞いたものをしっかりと返してい、この作業はとても大切だと思います。難しいやり方ではなく、紙芝居という素晴らしい方法…。私もやってみたくと思いました。	素敵なお話を聞きました。「聞き慣れた声、知っている人が演じているからいいんだ」というお話、納得です！！これからのケアに、また紙芝居を演じる人に生かしたいと思えます。ありがとうございます。
5	研究者(歴史民俗学)	役に立つと思う		介護とは別に、日本人の戦争体験というものとしても、またその記録としても大切なものだと思う。	西伊豆の紙芝居とも共通したところや、少し違う点もあるが、生合成を整えて、介護の大きな武器にしていきたいと思います。
6	介護施設職員	役に立つと思う			
7	介護施設職員	役に立つと思う	とらさんがおっしゃっていたように、ご自身の体験を投影させやすいと思うから。「普通」ではなかったですが、怖い体験、親子の話、自分の子育てや人生観、思いを重ねられる場面が多くあると思う。	相手が構えることなく、思い出したエピソードを自由に語るきっかけになると思う。紙芝居という視覚と人の声の両方から、受け身ではあるけれど強制的ではない働きかけでいろんな反応をとられると思う。	紙芝居大会は、昨年に引き続き2回目です。どうしても一歩踏み出せず、演じることができて、でも決意のきっかけになりそうです。
8	介護施設職員	役に立つと思う	自分の目標や生き方の振り返り、人生の整理、代弁、他者の代弁につながる。	一つの作品として作ることで、達成感や喜びがある。	一つの介護の形であり、ここからさらに続くものと思いました。
9	その他(義母の介護中)		とても心に沁みました。とらさんの語り口調に引き込まれ、とても短い時間を感じました(長い30分と最初に言われましたが)。	現在、私は義母の介護に(ケアホームに入所中)携わっておりますが、義母との関わりで可能性を見出すきっかけを感謝しております。	ありがとうございます。自分の人生をこれから大切に考えて、母(94歳)の人生も大切にしていきたいと思えます。
10	不明	役に立つと思う	語る事ができ、それを聞いたり見たりでき、家族にも周りの人にも理解でき、いい関係ができると思います。	一人の人の人生劇場ですが、物語として、他の方にも共感でき、ドラマが伝わるような気がします。ノンフィクションを紙芝居という形で、素晴らしいと思います。	現在傾聴法をボランティアではじめていますが、まだうまくいきません。テープ起こしの難しさ、本人の気持ちがあまく伝わり表現できるのか、苦しいです。
11	紙芝居演者(主婦ボランティア)	役に立つと思う	素晴らしいです。今日はいよいよ日になりました。まず、この若い方がこの紙芝居を作ってくれたこと、嬉しいですね。美恵子さんととらさんが重なって感動です。		室内ではライトを使われてはいかかかと(白内障の人に)。カラフトはソ連の侵入でしかないのでは…正式頼上でない。「今から●●年前」という表現は、上演日に合わせて欲しい。
12	介護施設職員	役に立つと思う	戦争を知らない世代のため、紙芝居を通して辛い体験をされたことを知ることができた。紙芝居をすることで、高齢者も本音を言いやすくなると思う。	同じ時代に戦争という共通の体験をされた方の実話を聞くことで、同世代の同じ体験をされたお年寄りに共感できるのではないかと感じた。お互い辛い体験を話すことで、気持ちが楽(軽)になったり、自分だけではないと思えるのではないかと。	昔のことをよく覚えておられる高齢者がほとんど。特に戦争のことは強く記憶に残っている出来事だと思える。紙芝居としてご自身の人生を残され、戦争を知らない世代の人にも聞かせるてもらえたらと思う。
13	介護福祉専門学校講師	役に立つと思う		現場ではじっくりと時間をとって面接をして聞き取りをするのが難しいのではないかと感じました。	今日は「美恵子さんの生涯」を会場の皆さんと見て、感じる事ができて、とても感動しました。
14	介護施設職員	役に立つと思う	本人からの言葉を聞き出すのはなかなか難しいですが、ターミナルの際に必要な話、共感します。ご家族にも納得してもらうために、本人の話をもっと聞き出していきたい。その時間を作りたい。	他者の人生の話に呼び起こされて、自分の記憶が蘇ると思う。悲しみ、怒り、喜びの場面に感情が揺さぶられると思う。	さすが、語りが素晴らしい。引き込まれました。ありがとうございます。来てよかった。今日はこれから夜勤です。頑張ります。
15	介護施設職員	役に立つと思う	その人を知る上でも、その後の関係性や関わり方にも変わってくると思う。	その人の人生を振り返る、総括のような役割も果たしているような気がしました。	また、川崎さんの紙芝居も見たいです。
16	学校図書館司書	役に立つと思う			自分のおばあちゃん(94歳)の昔の話をたくさん繰り返して聞いたのを思い出しました。いつか、おばあちゃんを見送る私(身内)のためになつたと思えます。紙芝居良かったです。本当に涙しました。

表4.『人生劇場紙芝居』に対する介護職員等の反応（2）

回答者 No.	質問① 回答者属性	質問② 人生劇場紙芝居は役に立つか？	質問②の理由	質問③ 高齢者の声(記憶)を引き出すための手立てとして、人生劇場紙芝居に感じる特性や可能性、課題等について(回想法や傾聴法、聞き書きなどと比べて)	質問④ その他ご意見、ご感想
17	介護施設職員	役に立つと思う	忘れていた人も、かたくなになっている人も、自分を重ね合わせて回想できるのではないかと思う。	自分がその話の主人公とダブってしまうことがあるのでは。	広く普及させて欲しい。今年、テレビや報道で、なぜか、戦争の生フィルムが流されていた。段々と少なくなる戦争体験者の話を残していきたい。
18	主婦	役に立つと思う	高齢者が、自分の人生と重ねて楽しめるのではないかと思います。	やはり「自分にもあるある…」という感じでしょうか。	はじめての経験で驚き感動しました。
19	介護施設職員	役に立つと思う	素晴らしい、是非職場でやって見たいです。ワクワク	戦争が織り込まれているのがいいです。	一生懸命演じる。引き込まれてしまいました。本当に素晴らしいかったです。
20	ホームヘルパー(介護派遣)	役に立つと思う	人の人生を描いた紙芝居ははじめてでしたが、見ている間に引き込まれていき、自然と涙が出ました。今現在、モノが溢れた時代に生まれ、人への思いやり、物の大切さを改めて思い直すことができました。	同じ時代に感じたことや経験したことを紙芝居にさせていただくと、いろいろなことを思い出し、辛いこともあると思いますが、若かった頃、楽しかったことも思い出せると思います。	時間内でやらなければいけない仕事の中で、人はどれだけ自身のことを聞いて欲しいか、関心を持って欲しいか、ひしひしと感ずることがあります。とてもとても素敵なお仕事であると思います。これからも頑張ってください。今日は本当にありがとうございました。
21	ホームヘルパー(介護派遣)	役に立つと思う	その方の人生のお話を聞かせてもらうことは、仕事の中で短時間で時々ではありますが、とても大切な時間とと思っています。今回で、より一層そう思いました。	自分のことを語るのが苦手な方もおられるが、時間をかけて聞くのは大切なことだと思います。絵もあり、イメージが浮かびやすいと思うので、とても良いと思います。	とても感動しました。心にスツツと入ってくる感じがした。とても良かったです。
22	ケアマネジャー	役に立つと思う	同じ体験をした人が思い出したり共感できることで、本人の言えない思いが本人や介護している人たちに伝えることができると思うから。	回想法と同様、自分の人生を思い出し、振り返ることができると思います。嬉しいことと同様、辛かったことを思い出すことで、自分の人生を思い返すことが大切だと思います。	
23	介護施設職員	役に立つと思う	ご本人の生の声がたくさん詰まっていると思うので、個別の入浴をしている時、マンツーマンなのでいろんな話をしてくださるけれど、それをなかなか形には残せないのが、時間があれば、それぞれの人生のお話を残したい気持ちがあります。	ご家族の前で、ご本人と一緒に気持ちを伝えられることが、とても大きいと思います。他の人の人生を聞いても、自然と自分を振り返ることも大きいのではないのでしょうか。	紙芝居にいろいろな可能性を感じました。
24	介護施設職員	役に立つと思う	カンファレンスなどで、しっかり利用者の方の家族の方に、ご本人の昔を聞いていきたいと思いました。	紙芝居とかはとってほしいと思うけれど、演じ方が下手だと心に響かない。プロだから心に響くんじゃないのかなと思います。	是非うちの施設にも来ていただきたい。どう演じれば上手にできるのを知りたい。
25	その他の医療関係者	役に立つと思う	それぞれの人生を回想できて、共感できる時間があるために、この紙芝居の価値があると思います。		
26	介護施設職員		なんとも素晴らしい作品です。一つのドラマですね。		
27	コープ神戸福祉サークル紙芝居	役に立つと思う	人生劇場紙芝居…これは歴史の紙芝居ではないでしょうか？小学生、中学生にも見せて、戦争について考える教材になるような気がします。	コープ神戸にも傾聴サークルがあります。高齢者の方の話を聞いてあげることの重要性を改めて知りました。	本当にご苦労様でした。第二次大戦を経験された方々にはいろんなドラマがあると嬉しいです。素晴らしい紙芝居ができたと思います。お疲れ様でした。ありがとうございました。
28	ボランティア(紙芝居)	役に立つと思う			
29	介護施設職員	役に立つと思う	高齢者様が今まで生きてこられた人生の苦楽に、職員、家族、地域の人々が関心を持つきっかけにできるから。	高齢者様との話を引き出すきっかけにしている。	これからも続けたい。
30	介護施設職員	わからない		作成することが、非常に大変であると思う。	
31	介護施設職員	役に立つと思う	一人の方の生涯を知ることで、現在どうしたいか、どういう最期を迎えたいか、現在の問題行動のワケなどを知ることができるのではないかと考えたから。	介護現場で人生劇場紙芝居を行うことで、不安や迷いが少しでも減るのではないかと思います。ただ(行い方で)日常に行うというよりは、大人数でじっくりやった方が、それぞれに届くかと思いました。	
32	介護施設職員	役に立つと思う	その方に真剣に向かい合い、話をじっくり聞いて理解することはとても大事だと思う。また、紙芝居によってなお心に入りやすい、考えやすくと感じた。	介護現場ではなかなかお一人のお話をじっくり聞くことができていないので、聞ける時間を作りたいです。	
33	ホームヘルパー(介護派遣)	役に立つと思う	もしかしら、ご本人は辛い思い出を話したくないかもしれないが、紙芝居をすることによって、その人になったようになり、その人の気持ちがわかると思います。	話を聞くだけでは耳からしか入ってこないが、紙芝居をしたことで、目と耳両方から入り、良かったです。	また、このような機会があれば、是非参加したいです。
34	介護施設の運営者	役に立つと思う	すごい！！共感性を生みやすいし、動機性も高まる。	アートの要素が強いので、受け入れられやすいと思う。	めっちゃ泣きました。同世代でこんなに頑張っている人がいるなんて。自分も頑張ろうと思いました。ありがとうございました。(はいごんちよ:小林)

表 5. 『人生劇場紙芝居』に対する介護職員等の反応（3）

回答者 No.	質問① 回答者属性	質問② 人生劇場紙芝居は役に立つか？	質問②の理由	質問③ 高齢者の声（記憶）を引き出すための手立てとして、人生劇場紙芝居に感じる特性や可能性、課題等について（回想法や傾聴法、聞き書きなどと比べて）	質問④ その他ご意見、ご感想
35	介護施設職員	役に立つと思う	その人の人生経験を共有する上で大切だと思った。 時間を上手に作らないと難しいこともあると思った（私の職場では）	人生の流れに沿って描かれているので、記憶を想起しやすいと思った。 話を聞ける時に、しっかり聞いてあげることが大切だと思った。 ご本人の状態によっては難しくなる。ご家族の協力も情報を得る上で必要だと感じた。	私の現場では、介護が作業的に感じられることが多くなって来ました。人手不足を理由に介護を簡略してはいけなと思っています。 現場で、何を大切にしていけるのか、職員で共有していければと思っています。 話を聞く時間は、利用者と関係を作る中でとても必要だと感じています。
36	保育士（18年前介護職）	役に立つと思う	ご利用者の本当の気持ちを聞き取るということ、そのことの重要性を介護スタッフが知るとのこと。	聞き取りをする時間が取れないことが問題。 思いを汲み取ることの重要性を共有することが難しい。	現場にいながら、自分もこういう紙芝居を作ってみて良かったと思う。本当に素晴らしい。涙が溢れました。三橋とらさん、大ファンになりました。本当に素晴らしい実演、ありがとうございました。
37	紙芝居祭り主催グループメンバー	役に立つと思う	人生劇場紙芝居、感動しました。紙芝居の本質、特色の意義を感じました。 三橋さんの実演はとっっても心がこもっていました。紙芝居で人生を伝える、作り手と演じての共同作業。本当に心のこもった紙芝居、ありがとうございました。	人生劇場紙芝居、初めて体験しましたが、三橋さんの感性と暖かな心配りがあってのことと思います。感動いたしました。	主人公と作り手の心の交流と、三橋さんの感性の豊かさがある心をつつ紙芝居が作られたと思います。 ただ、感動しました。また拝聴したいと思います。
38	認知症本人と家族相手の電話相談員	役に立つと思う	本人の生涯の過去を回想していく中で、あらゆる生活の実体験（回想）が具体化してくる。それを中心に聞き語り、共有することができると思った。	可能性：人のことだけど、自分の事のように感じとられる。 課題性：演技方や絵の描き方によっては、高齢者に対して負担・疲れを感じることもあるかも（間合い、声のトーンなど）	
39	介護施設職員	役に立つと思う	利用者の若い頃の話時々聞くことがあるが、詳しくは知らないことが多く、情報の共有がしにくい。紙芝居だとわかりやすく、その人のことがわかるので、いいと思います。	紙芝居を通して再び記憶を呼び戻すことができ、振り返ることができる。	
40	介護施設職員	役に立つと思う	介護現場でしか知らない高齢者、その人の人生を垣間見ることができるのは素敵なことだし、もっと知りたくなった。	聞き取りだけでいつも終わるので、何か紙芝居のような形の残るものができたらいいなと思う。 自分がされたら嬉しいと思う。	前に「自分誌」という、その人の人生が書かれた雑誌をみたことがあります。自分のことを書いて本にしてくれる、そんな雑誌でした。今回の紙芝居の東原さんと同じく、やはり生き生きと語ってくれていました。傾聴することの大切さを改めて感じました。
41	介護施設職員	役に立つと思う	昔のことは知ること、職員の方への見方が変わるかもしれないと思う。 昔の話を話されることで、ご本人様も元気になると思う。	絵と話し言葉で伝えるので、共感できる。伝えたいことがしっかり伝わると思いました。	とらちゃん、めっちゃめっちゃ綺麗で可愛い。ほんまに女優さんみたいですね。初めて紙芝居見ました。感動しました。
42	保育士（アルバイト）	役に立つと思う	その方の人生を丁寧に聞くことで、大きなものを得られる（相互の方々）。	大切な歴史を（人々の）確定する。その上、多くの人の共有が得られる。	この紙芝居を演じてもらって、戦争の実態が生々しくわかり、とても大切なことを教わりました。さらにいろいろな方々の歴史も取り込んでほしい。
43	介護施設職員	役に立つと思う		紙芝居を作るにあたって、ご本人への聞き取りにたくさん時間をとることになるだろうと思われます。その方の歴史を引き出す（聞き出す）上で有意義な機会になると思います。	プロの紙芝居屋さんの話を聞くことができました。物語にすると引き込まれていく、その楽しさを感じました。

このアンケート調査は、2017年9月3日大阪 PLP 会館で実施した。

『人生劇場紙芝居』の公演を鑑賞した約 100 名の介護実務者等に公演終了後記入を依頼した。

回答者は 43 名であった。

（4）考察

ここでは、各種ヒアリング調査やアンケート調査等の結果を踏まえながら、本研究調査の目的として提起した①～⑥までの問題に対し、現時点における回答を試みたい。

①高齢者に対する丁寧な聴取り調査は、高齢者本人の終末期を有意義に過ごすことに繋がり得るか。

・しゃくなげ荘における聴取り対象者 2 名は、いずれも施設職員からは「2 人とも聴取り調査が楽しみなようで、『次はいつきてくれるんだろうか』と訊いてくる。いつ死期がやってきても不思議ではない状態だが、以前より元気になってきている。」と報告があった。

・また、広島市内の 80 代女性 2 人（自立生活）からも、「次の聴取りを楽しみに待っている」との声が上がった。

・岩見沢市の 80 代女性（要介護 3 で在宅介護）からは、「どんどん昔の記憶が蘇ってくる。あんなこともあった、こんなこともあったと思い出しているうちに元気になってきたような気がする」という感想を得た。

・聴取りが高齢者に張り合いや元気をもたらすのは言わずもがなであろう。ただ、日常の介護・看護を担当する従事者にその時間的な余裕はさほど残されていないというのが実情である。

②高齢者に対する丁寧な聴取り調査を行う過程で、高齢者が自らの意思による終末期の過ごし方や看取りの希望等に関して口に出すようになるか。

・北海道鹿追町の2名、和歌山県田辺市の1名、広島県三次市の2名は聴取り調査以前にすでに終末期に関する意思表示をしていた。しかし今回のヒアリングの機会に再度その意思を表明するところとなった。

・広島市の80代女性も葬儀等の死後事務の手配は済ませておいたが、このヒアリングをとおして、さらに細かく希望を表明するところとなった（献体に搬送されるまでに開催してほしい宴のことなど）。

・岩見沢市の女性（80代）は、家族（息子夫婦、孫）と主治医（往診医）とが密なやり取りをしており、ゆくゆくは自宅看取りを想定しているということであったが、本人から死に方に関する言及は無い。

・以上から、聴取りが終末期の意思表示を促し得るかという問題に関しては、「100%ではないがその効果はある」と記すことができるだろう。

③高齢者のこれまでの人生の来し方や、終末期に関する意思表示に対して、家族はその意思を尊重できるのか。また、どのような考え方を持つのか。

・北海道鹿追町の男性の息子や娘は、『人生劇場紙芝居』をとおして初めて父親の人生の来し方を詳しく知り、最期まで本人の意思どおりの生活を送ってもらいたいと感じたようである。

・また北海道岩見沢市の女性の息子は、母親が辛いときも嬉しいときも歌とともに生きてきたということを変更して認識したようで、「最後まで歌に溢れた生活を送ってもらいたい」との発言があった。

・広島市の女性（80代）の娘は、献体するという母親の意思を尊重するということであった。

・広島県三次市の夫婦（ともに80代）の娘は、「最期は自宅でみんなに看取って欲しい。肝臓癌で吐血があるかもしれないが、決して救急車など呼ばないように。」という父親の頼みを守りとおした。「近所からは人非人のように思われるかもしれないけれど、お父さんの気持ちを優先した」とのことであった。

・高齢者自身の人生のストーリーを知るならば、子供達はその流れを可能な限り尊重する可能性は大いにあるといえる。

④紙芝居等の各種手段は、家族や職員等が高齢者の人生や意思を理解・認識する上で有効・有望な手立てとなり得るか。

・『人生劇場紙芝居』については、介護従事者等からのアンケート回答から、大いに有望な手立てになり得るものと期待される。

・しかし一方で、一人一人の高齢者に紙芝居を制作することは現実的に難しい（費用、制作者の確保等の問題）。紙芝居以外の手立てを模索する必要があるが、聞き書きノート（傾聴記録）は文字が多すぎるので家族以外は読まれることが少ない。写真を使用したスライドショーなどは聞き書きノートよりは共有に適していると思われるが、紙芝居ほどではないにしろ制作技術・時間が問題となる。また、聞き書きも含めて、ボランティアの労力が不可欠となる。

・時間にも費用にも労力にも限界がある中で、高齢者の意思や気持ちを引き出していくためには、介護や看護のスタッフが、通常業務の合間合間に耳にしたことを記録し、その記録をもとに高齢者に聞き返しの質問をする、このような形で工夫して進める以外にない。したがって、紙芝居のような“大がかりな表現ツール”だけでなく、「普段の記録、その保存、記録内容の共有ができる補助的なツール」の開発が求められる（東京センター方式アセスメントシートはやや大がかり過ぎ、またSOAP形式の看護記録はフィジカル・バイタル面に偏りすぎるきらいがあるため）。

⑤これら一連の取り組みが、高齢者本人の介護度やQOLの改善に繋がり得るのか。

・前述①や③からみても、高齢者本人の介護度やQOLの改善に繋がり得るといって支障ないだろう。

⑥これら一連の取り組みを知った上で、全国の高齢者施設や医療・介護関係者等は、看取りの推進やリビングウィル確認に対して、どのような考え方を持つか。

・本研究調査期間中においては、「『人生劇場紙芝居』に対する考え方」は調査できたが、「看取りの推進やリビングウィルの確認に関する考え方」の確認にまでは至らなかった。

・しかし、しゃくなげ荘山本施設長（本研究メンバーであり、全国老人福祉施設協議会理事）の「施設で死亡すれば看取りになる。とにかく施設で亡くなってくれさえすればいいというような“なし崩し的な看取り”が増えているようで懸念される。」という言葉でもわかるように、高齢者本人の QOL や QOD を無視・軽視した介護や看取りが行われている懸念を拭い去ることができない。

・人生のストーリーを成就・完成させてもらうための最後のシーンが看取りであるということ、多くの介護関係者に啓蒙していく課題は残されている。

（5）聴取りの記録・共有補助ツールの提案

日常の介護や看護に携わる専門家スタッフが高齢者とのコミュニケーションのために持てる時間的余裕はごく僅かである。しかし、この介護・看護スタッフを除くと、要介護期の高齢者とコミュニケーション機会を持つ人はいない（傾聴ボランティア等は人数が十分ではない）。

家族がヒアリングするケースも十分考えられるが、高齢者は本音本心を家族には語りづらいところもあることから、家族以外の聞き手が重要となる。

こうした状況を踏まえ、介護・看護スタッフたちが、日々の業務の中で高齢者の発言内容や人生情報を記録し、スタッフ間で共有するためのチャート図式（案）を提案したい。『(仮称) 人生の来し方：時空チャート（以下、時空チャートと呼ぶ）』である。これまでの考察を踏まえ、本人の人生や意志を確認する上で「時間－空間軸」の設定が有効なこと、記録・共有媒体として簡易性普及性に優れることを考慮したものである。

時空チャートの事例として、本調査対象における一例を図1に示すが、次のような特徴を持つものとして企画している。

・看護スタッフが使用する SOAP 形式の看護記録で、どうしても脱け落ちることが多い「ソーシャル」、「メンタル」分野の情報を記入してもらう。

・介護施設でアセスメントに利用する東京センター方式は、情報が多すぎて把握・使用できるスタッフが少なくなるきらいがある。東京センター方式より情報量を落とすとともに、一目で時間軸と空間軸の中での情報を把握・理解できるように企画した。

・この、時間軸と空間軸による情報表示は、「昔の知識」や「他所の知識」に乏しい若手職員の理解を支援することにも繋がると考えている。

・転居が多かったかどうか、現住地以外の土地を知っているかどうか、食べ物、音楽などの嗜好、出会いや別れ、愛憎など、高齢者の人生を彩るものごとを記録しておく。これらの情報は、高齢者との会話の糸口を素早く探るための補助ツールともなる。

・Excel ファイル&ブックによる作成・保存で、同一対象者の記録を職員別に記録・加筆・修正・保存することが可能となり、またそれを他の職員が閲覧することも可能となる。

人生の来し方: 時空チャート 目録【氏名: Tさん 昭和9年生まれ】				出会いの別れは静乎	静かな静乎	静かな静乎	静かな静乎
記録日	記録日	年代	場所(空間)1: 愛媛 松山	場所(空間)2: 愛媛 松山	場所(空間)3: 広島 広島	場所(空間)4: 広島 広島	場所(空間)5: 広島 広島
TC	1934		愛媛県松山に生まれる(母三喜)				
TC	1936						
TC	1938						
TC	1940		子供の頃の写真が少ない。三喜はどやどやいじわるな子で、おれを苦しめた。三喜は三喜に落ちた。				
TC	1942		オムツに這い寄り、母親のいじわるだけが家の住居を壊す。三喜は三喜に落ちた。				
TC	1944	1940	【三喜に感謝】 三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	1946		【三喜に感謝】 三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	1948		【三喜に感謝】 三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	1950		【三喜に感謝】 三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	1952		三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	1954	2010	三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	1956		三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	1958		三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	1960		三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	1962		三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	1964	2010	三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	1966		三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	1968		三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	1970		三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	1972		三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	1974	2010	三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	1976		三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	1978		三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	1980		三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	1982		三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	1984	2010	三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	1986		三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	1988		三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	1990		三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	1992		三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	1994	2010	三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	1996		三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	1998		三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	2000		三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	2002		三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	2004	2010	三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	2006		三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	2008		三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	2010		三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	2012		三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	2014	2010	三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				
TC	2016		三喜について三喜の三喜の三喜から愛媛県松山に落ちた。				

図1. 人生の来し方整理：時空チャートの作成事例

今後の展望および課題

(1) 時空チャートの実証実験

僅かな時間ではあるが、看護・介護スタッフは日々高齢者と直接コミュニケーションを図る機会に恵まれている。この方々が僅かな時間ではあっても、日々高齢者の人生の情報や、本音・本心を聞き取り、それらを記録し、他のスタッフと共有できるならば、要支援・介護期高齢者のQOLは間違いなく向上するものと期待される。『時空チャート』を実際の看護・介護現場で使用してもらい、その有効性の確認や工夫・改良の方向の検討を行うための実験調査が必要である。

(2) “通訳能力”のある看護・介護人材の育成

(1)の実証実験の実施現場では、付帯して別の成果も期待できる。“通訳能力”のある看護・介護人材の育成である。

時空チャートをもとに、何人かのスタッフでミニカンファレンス(Excelファイル上のカンファレンスも可能)を重ねていくことで、高齢者の言葉を理解するための知識やセンスが徐々に身につくのではないかと期待される。

フィジカル面に関する知識・スキルには富むものの、高齢者とのコミュニケーション能力においては十分とはいえない人材も少なくない中で、高齢者の気持ちがより理解でき、他のスタッフや家族にも高齢者の気持ちを代弁してあげられるような、「通訳的な人材」を育成できるならば、一石二鳥というべき効果であろう。

(完)